

第64回環境保健夏季大学

テーマはフレイル予防と大学連携 企業などの海ごみ対策事例も共有

令和8年7月23日、RCC文化センター(広島市)で、「第64回環境保健夏季大学」を開催しました。日帰り参加できる2日間のプログラムで、県の政策紹介や専門家による情報提供、体験型分科会などを企画し、延べ151人が参加しました。

初日は、広島大学大学院人間社会科学研究所の黒坂志穂准教授による「骨から見るフレイル予防と運動」と題した講演を実施しました(詳細は2面)。フレイル予防における骨の重要性について学んだ後、環保協の健康づくりメニュー「STOP!フレイル事業」を紹介しました。続いて、広島県健康づくり推進課の武内聡課長から「広島県の「健康」施策に



(株)金本商会をはじめとした企業・団体による海洋プラスチックごみ削減に向けた取り組みを紹介



フレイル予防定食を考えた「食事」の分科会

は、ドロー活用モデル事業や食品ロス削減事業など、当協会の環境づくりメニューのほか、広島県による海洋プラスチックごみ削減の取り組みや、企業・

ついで、オール広島・骨活プロジェクト」をテーマに情報提供がありました。分科会では、「運動」「食事」「社会参加」をテーマにフレイル予防策を実践的に学びました。

団体による海ごみ問題への先進事例を紹介しました。午後は、大学と地域活動の連携をテーマにパネルトークと分科会を行い、大学職員や大学生との意見交換を通じて、連携に必要な視点を学びました(詳細は2面)。

多彩な内容の研修となりましたが、アンケートでは「楽しく学べてよかった」「大学生の生の声が聞けてよかった」などの声が寄せられました。参加者の高い満足度がかげえました。

今後当協会では、社会情勢や公衛協ニーズに応じた研修を提案し、実施したいと考えています。

(地域活動支援センター)

大崎上島町と脱温暖化協定締結 食品ロス削減へ生徒考案メニュー

当協会(脱温暖化センターひろしま)は、大崎上島町と「脱温暖化活動促進等に関する連携協定」を締結しました。6月



協定書を手に握手を交わす大崎上島町谷川町長(左)と、当協会兼森理事長(右)

どがあります。中でも特徴的なのは、学校や給食センターと連携した食品ロス削減に関する取り組みを掲げていることです。

この取り組みは、学校給食での食品ロス削減を通じて、脱温暖化意識の向上や温室効果ガスの削減につなげようとするもので、すでに大崎上島町中学校で生徒による食品ロス削減のための給食メニューづくりが始まっています。今後は、『ひろしま食べきりごはん(©脱温暖化センターひろしま)』としてレシピ化され、学校給食として提供される予定です。

また、10月17日には、この度の協定締結を記念して、大崎上島町公衆衛生推進協議会が主催する「ストップ温暖化!フォーラム」を開催し、近年の気候変動や防災をテーマにした講演のほか、生徒が考えた食品ロスのための給食レシピを披露します。

(脱温暖化センターひろしま)

きんせんか 琴線歌

身近な川で遊ぶ経験は、河川環境を「自分事」としてとらえるようになる第一歩であるように思う。いまから20年ぐらい前、息子が通う小学校で、子どもたちに自然に親しむ機会を提供することを目的とした保護者グループが発足した。近くには黒瀬川が流れ、カワムツ、オイカワなど、さまざまな魚が泳いでいたが、気づいている人はほとんどいないようだった。

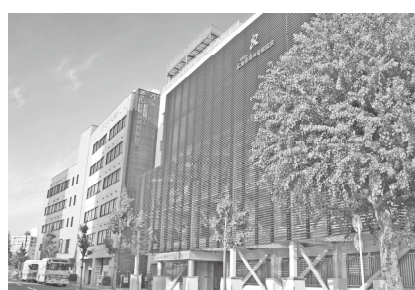
雑魚釣り

た。身近な川に関

心をもつ良い機会になりそうなので、保護者グループに声をかけて「親子雑魚(ざいご)釣り大会」をやることになった▼こちらで簡単な仕掛けとエサを用意すれば、はじめての子どもでもけつり釣れる。一時は50人を超え、参加者がある人気イベントになった。ところがある年を境に、魚がほとんどいなくなった。工事が大雨の一

最近、近所の黒瀬川の支流で魚影を見かけるようになった。以前の密度には到底及ばないが、やってみたら釣れそうな気がする。子どもたちの前で魚が釣れたら、大騒ぎになるだろう。近いうちに、試し釣りをしてみようと思っている。いつか「親子雑魚釣り大会」が復活することを願う。

(広島大学名誉教授 中坪孝之)



一般財団法人 ～みんなの生命をまもりつづけたい～

広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

かんぽきよう

検索

基本理念

みんなの生命(いのち)をまもりつづけたい。

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。

